

五分、尾根に立ち、右俣の遊行を終了。
 (記: 〇)

二俣(九:二五)↓右俣終了(一〇:二五)

「タイム」 枯松沢出合(七:〇五)↓

枯松沢左俣

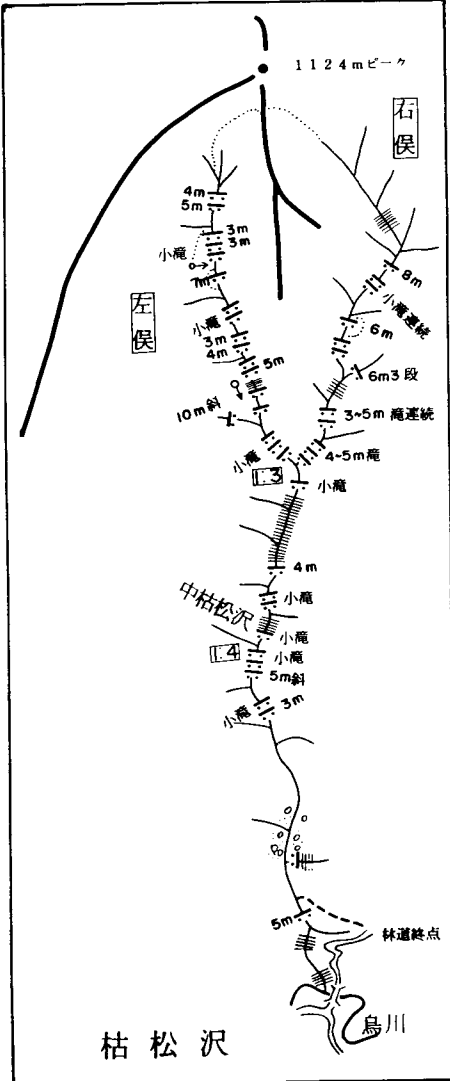
一九八四年七月二日

一〇時三〇分、左俣の下降を開始。

する。したがってここは沢の右岸の

やせ尾根に取り付いて捲くことになった。
 捲き終わって沢に降りると、またすぐ目の前が滝になった。ここもアップザイレンはやめて捲くことにするつもりが、途中で行きつまり、アップザイレンにて沢に戻る。するとまた七割程の滝が出て、これも捲くことにする。書き忘れたが、この沢

沢に降りた途端、五割級の滝が二つ連続して出てくる。シュリンゲの数は充分用意してきたが、アップザイレンを多用すると後で泣くことにもなりかねないので、アップザイレンは極力避けることに



は最初からナメと滝の連続する沢である。

このあとようやくクライミングダウンのできる小滝群の出現となって快適に下る。小滝群をぬけると一〇分のナメ滝となる。ここはともも捲けそうになく、二回目のアップザイレンをして切り抜ける。この後も小滝群が続く。

一二時、二俣に着く。左俣は沢の中にいるよりも、捲いてヤブの中にいる時間の方が長かったかもしれない。

枯松沢は、小滝が無数に出てきて面白かったが、反面、遊行図が混乱する記録者なかせの沢だった。

(記・金谷道洋)

〔タイム〕 左俣下降開始(一〇:三〇)

↓二俣(一二:〇〇)

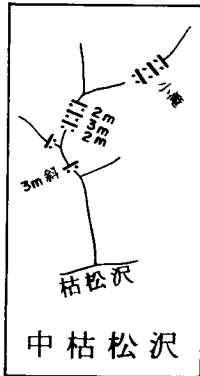
中枯松沢

一九八四年七月二日

枯松沢の下降途中で、この中枯松沢に寄り道する。出合着一三時五〇分。

一〇分ほど歩くと最初の滝に出会う。問題なく通過。このあと急に沢幅が狭くなってきた。土砂くずれの跡があり、倒木やぬかるみに苦労するようになる。

やがて、尾根が見え始める。雨が降ってきたのと、枯松沢の遊行で二



人共かなり疲労してきたので、尾根には登らず、ここで終了とする。結局、小滝が少しあるだけで、何もない沢だった。(記・)

〔タイム〕 中枯松沢出合(二三:五〇)

↓遊行終了(二五:二〇)